

着物が似合うまちを、みんなに楽しんでもほしい

伝統的な街並みが残る川越街道を、着物姿で歩く人たちが、さまざまな色や柄、着こなしを楽しんでいます。会を主催する「しまだきものさんぽの会」の小澤さんは、着物が似合うまちの魅力を伝えるため、活動を続けています。

【着物を愛する仲間と】

約3年前に、着物好きの仲間とともに「しまだきものさんぽの会」を設立した小澤さん。年に3回ほど、イベントを開催しています。

「もともと着物が好きなんです。でも日常生活では、なかなか着る機会がないのが寂しくて。島田市には、川越街道や蓬萊橋など、情緒あふれる街並みが残っているから『そこで着物を楽しめたらステキだな』と思って、同じ趣味の仲間と会を立ち上げたのが始まりです」
会では、参加者がのんびりと着物とまちを楽しめるようになっています。



「着物を着て集合すること以外、特にすることは決めていません。散歩をしたり、お茶を飲んだり、コンサートを聴いたり、写真を撮ったり。老若男女問わず、みんな自由に楽しんでいますよ」

いない人でも気軽に参加できますし、いつもと違う色や柄を楽しめるので、会員もよく利用しています。外国人の皆さんが大勢来て、着物を着てとても喜んでいたときは、私もうれしかったです」



しまだきものさんぽの会 事務局
おざわきょうこ
小澤京子さん(本通六丁目)

【誰でも気軽に】

小澤さんは、着られなくなった着物を有効活用する取り組みもしています。
「会員から古くなった着物を集めて、貸し出しと着付けをしています。着物を持って

【地域の魅力を再発見】

小澤さんは、きものさんぽ以外にも地域で着物を楽しめようという機会を作りたいと、アイデアを練っています。
「蓬萊橋897、4茶屋の1周年イベントでは、話題の

大河ドラマをイメージした格好で走りました。今は、蓬萊橋や川越街道をメインにそうしたイベントを開催していますが、活動をもっと広げて、商店街の活性化にもつなげていきたいとも考えています。日常で着物を楽しむ人が、商店街に増えたらいいですね」
参加者が、着物とまちを楽しんでくれているのが一番うれしい、と笑顔で語る小澤さん。「着物が似合うまち」のファンを増やすことは、地域を見つめ直すことだとも話します。

「着物でまちを歩くだけで、場所の雰囲気が変わるし、こんなに魅力的なまちだったんだ、と新しい発見ができます。まちの魅力は、街並みだけじゃなくてそこにいる人たちが含めた魅力。島田市は着物が似合うまちだともっと知ってもらい、訪れる人が増えたらうれしいですね」
艶やかな着物姿と、伝統的な美しい街並みの取り合わせは、まるでタイムスリップしたかのよう。小澤さんは、この着物のある風景を広め、まちの魅力を高めていきます。



Shimadajin File #90

島田
Story
人

3月23日に開催された
「着物 de 川越街道」